

事例8

もりをえがこう（どんな物にも色がある）

内容	森の樹木や草花、景色等を自由に描き、自然にあるものを使って色をつける。
ねらい	色は全て自然界のものを使うので、自然を細かく見て、樹肌、土の色、木の葉、草花、すべてのものに色があることに気づく。 また、ふりかえりで、森のしくみ等を知る。
学習効果	表現、観察、発想等の能力が身につく。
関連教科	図工、理科
対象学年	小学校1～6年生
対象人数	1クラス
場所	屋外
時期	通年
進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各自、筆記用具と画用紙のみで参加する。 2. ルールを説明し、絵具のかわりに、自然界にあるものを使って色付けをするように指示をする。 3. 時間内に書き終わったら、集合させて、何を描いたか、どんなもので色をつけたのか、その他感想を聞く。 4. 終わったら、実際に全員で森に入って、どのようなもので色付けをしたのか、その植物が森の中でどんな役割を担っているのか、ふりかえりを行う。

<p>ポイント</p>	<p>1. ふりかえりの中で、樹皮の形状や色の違い、同じ緑でも濃さの違いなどに気付く。花は酸化作用で色が変わってきたり、土の色も場所で違う等の発見がある。</p> <p>2. 事前調査 スズメバチの巣の有無、有毒植物やかぶれる植物は無い、危険箇所は無い等の安全対策</p>
<p>道具・材料</p>	<p>筆記用具</p>
<p>所要時間</p>	<p>60分以上～90分</p>
<p>経費</p>	<p>講師料 1人1回 5,000円 交通費 近隣、市内 1,000円 県内 5,000円 材料費資料代 0円 計 6,000～10,000円</p>
<p>森のせせしめ 氏名・団体名</p>	<p>山野内 宗広</p>

